

(3) 糖尿病

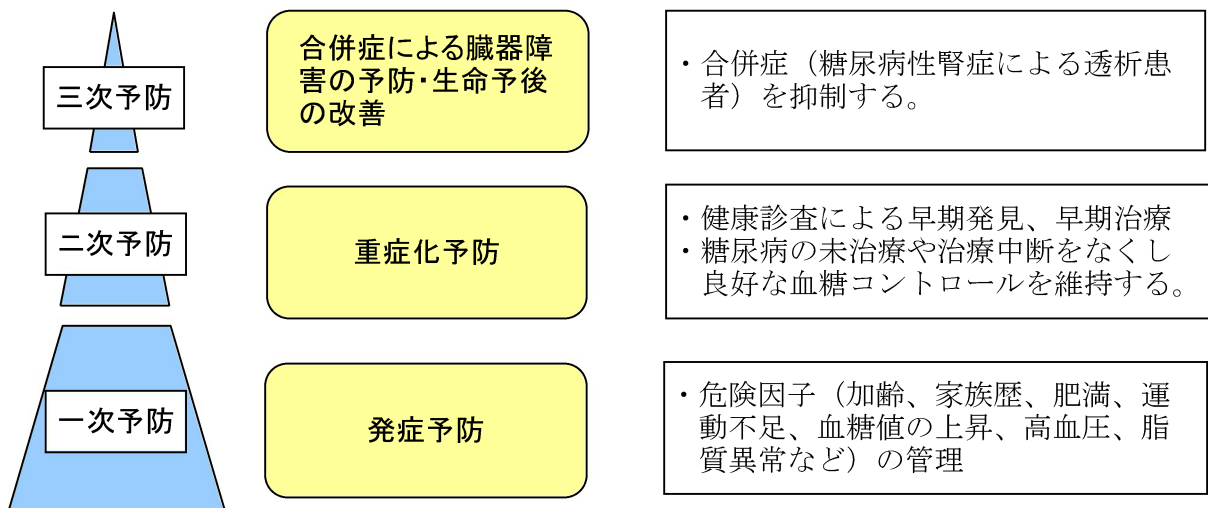
【基本的な考え方】

糖尿病は自覚症状がないことが多く、重篤になると網膜症や腎症、神経障害などの合併症や認知症の発症に影響を及ぼし、本人や家族、そして社会的な医療費の負担も大きくなります。

糖尿病における危険因子は、加齢、家族歴、肥満、運動不足、血糖値の上昇とされています。

危険因子の管理が重要であり、健康診査等による確認や早期の保健指導、治療継続など循環器同様の予防対策が有効になります。

【予防段階に応じた糖尿病対策】



【現状と目標】

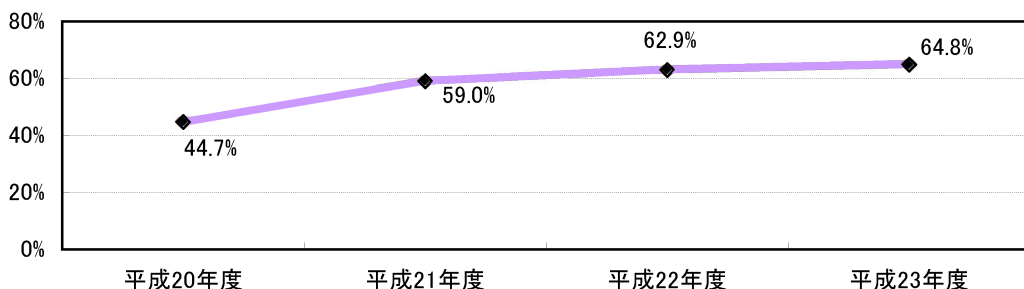
《特定健康診査から見る糖尿病の有病者の状況》

市の特定健康診査受診者の状況では、HbA1c（注）有病者（JDS基準6.1%以上）の割合が6割弱おり、年々増加傾向にあります。

（注）HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）

血色素（ヘモグロビン）にブドウ糖が結合した割合。過去1～3ヶ月の平均的な血糖値がわかります。日本独自のHbA1c（JDS）と国際基準のHbA1c（NGSP）があり、JDS値は国際基準（NGSP）より低値となっています。

【糖尿病有病者（HbA1c(JDS)6.1%）の割合】



※ 恵庭市特定健康診査

目標 糖尿病有病者の増加の抑制

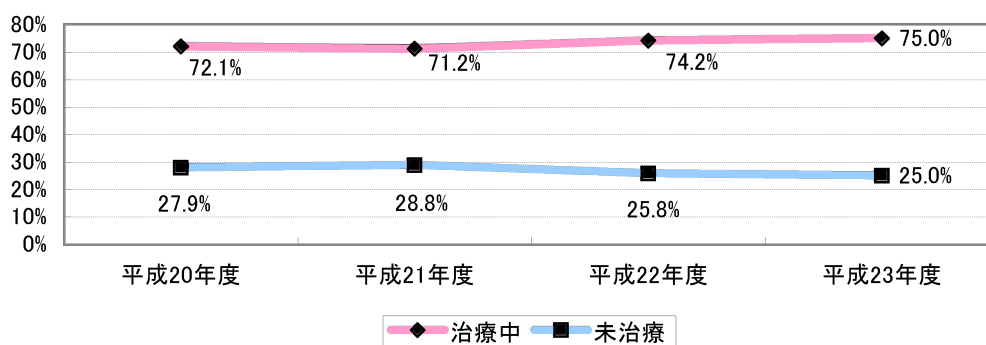
《糖尿病治療の状況》

糖尿病における治療中断を減少させることは糖尿病合併症抑制のために必須です。

市の平成22年度特定健康診査受診者のうち、「医療機関や健診で糖尿病と言われたことがある」と回答した人のうち、「糖尿病の治療を現在受けている」と回答した人は、75.0%と増加傾向であり、「糖尿病の治療を受けていない」と回答した人は、25.0%と減少傾向にあります。

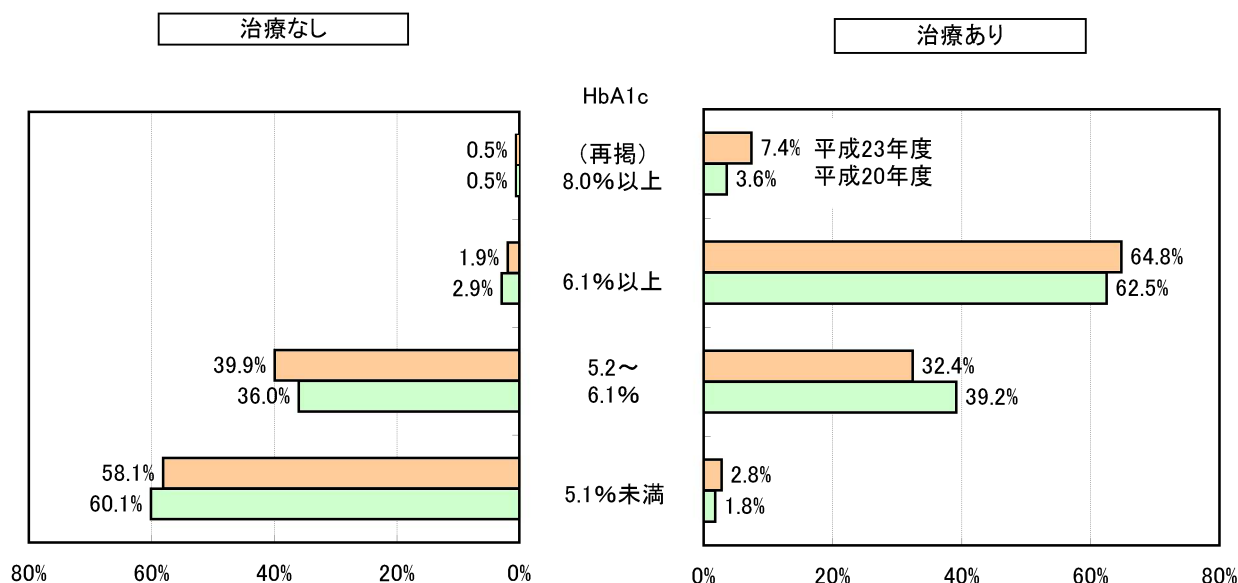
特定健康診査受診者のHbA1cを糖尿病治療の有無からみてみると、治療をしている人のHbA1cの状況は、平成20年度と比較すると、HbA1c8.0%以上のコントロール不良群が7.4%であり、増加しています。今後は、治療中にもかかわらず血糖コントロールが難しい人や、さらに治療中断により血糖のコントロールが悪くなっている人を減少させるために、より積極的な保健指導が必要と考えています。

【医療機関や健診で糖尿病と言われたことがある】



※ 恵庭市特定健康診査

【特定健診受診者の治療有無別HbA1c値】



※ 平成20,23年度恵庭市特定健康診査

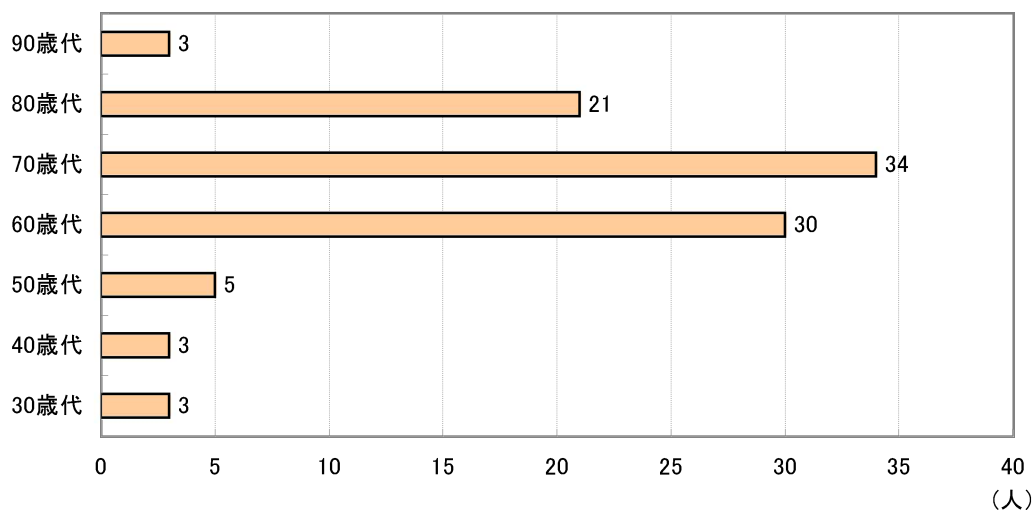
目標	血糖コントロール不良者の割合の減少
	治療継続者の割合の増加

《人工透析患者の状況》

平成24年度国民健康保険および後期高齢者医療保険制度加入者で人工透析患者は99人となっており、年代別では、50歳代から増加し、70歳代がピークとなっています。

人工透析の原因の半数は糖尿病とされており、糖尿病の発症から糖尿病性腎症による透析導入に至るまでの期間は、約20年間と言われています。人工透析導入が増加し始める50歳代以前の予防が重要であり、健康診査の受診勧奨とともに、腎機能との関連が深い血圧やクレアチニンにも着目し、保健指導を実施していく必要があります。

【年代別人工透析患者数】



※ 平成24年度恵庭市国民健康保険および後期高齢者医療 特定疾病療養受給者証発行数

目標 人工透析導入患者数の減少

【 対 策 】

	次世代	働きざかり	高齢者
個人・家族・地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●妊婦健診、乳幼児健診をしっかりと受けよう。 ●親子（母子）手帳を活用し、健診結果から生活習慣を振り返ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●健診結果から生活習慣を振り返ろう。 ●必要な治療は中断せずに病気と上手に付き合おう。 	

市の取組み	①糖尿病予防の推進		
	事業名	概 要	担当
	保健指導	特定保健指導対象者（肥満を伴い、血圧・血糖・脂質検査値に異常のみられる人）に生活習慣の改善指導、また発症予防（肥満を伴わず、血圧・血糖・脂質検査値に異常のみられる人）への支援も行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導（積極的支援・動機付け支援） ・発症予防保健指導 ・結果説明会 	保健課 国民健康保険課 医療給付課
	健康相談	よりよい生活習慣や健診データの疑問や不安など広く健康づくりに関する相談を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり相談日 ・高齢者はつらつ相談日 ・健康・育児ほっとダイヤル 	保健課
	訪問指導	治療必要者および治療中断者（重症化予防対象者）などの家庭に訪問をし、生活実態に合った指導を行います。また、妊娠中から血糖が高い産婦に赤ちゃん訪問の機会に保健指導を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問指導 ・赤ちゃん訪問 	保健課
	②糖尿病予防に関する知識の普及・啓発の推進		
	事業名	概 要	担当
	健康教育講演会	生活習慣の見直しと健診受診の動機付けとなるよう、広く一般市民を対象とした生活習慣病予防のための健康学習会や講演会を開催します。 <ul style="list-style-type: none"> ・医師による生活習慣病予防講演会 ・町内会や企業への出前講座 ・老人クラブへの健康教育 ・妊婦教室での母体の健康管理講話 ・結果説明会 	保健課
	学校教育	自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てます。	教育委員会
	③特定健康診査等の推進		
事業名	概 要	担当	
特定健康診査等	特定健康診査・健康診査とがん検診の一括実施や休日健（検）診の実施など利用しやすい体制の充実を図ります。対象者への個別案内や健（検）診受診券の発行、広報誌などを利用した啓発活動に加え、未受診者への受診勧奨通知など受診率の向上に努めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査、健康診査、脳ドック 	保健課 国民健康保険課 医療給付課	
妊婦健康診査	親子（母子）健康手帳発行時に、妊婦一般健診受診券を発行し、週数に応じた健診受診を促します。	保健課	

	項目	現状	平成29年度	参考(国=目標値)	出典
評価指標	糖尿病有病者の増加の抑制(HbA1c 6.1%以上)	64.8% (平成23年度)	減少傾向	1,000万人 (平成34年度)	恵庭市特定健康 診査
	血糖コントロール不良者の割合の減少(HbA1c 8.0%以上)	7.4% (平成23年度)	減少傾向	1.0% (平成34年度)	恵庭市特定健康 診査
	治療継続者の割合の増加	75.0% (平成23年度)	増加傾向	75% (平成34年度)	恵庭市特定健康 診査
	人工透析導入患者数の減少	99人 (平成24年度)	減少傾向	15,000人 (平成34年度)	国民健康保険および後期高齢者医療 特定疾病療養受給者証発行数

